

まえがき

イチローの強さは スピード情報にある。

小さいことの積み重ねが大きな成功につながります。

ところが、みんな大きい理由しか見ていません。

大きい理由だけで成功することはありません。

大きい理由を支える中ぐらの理由がたくさんあって、その中ぐらの理由を支える小さい理由、別の言い方をすれば、小さい努力がたくさんあるのです。

まず、この小さい努力をすることが大事です。

「それだけのことで成功するのですか」と言われますが、もちろんそれ1個では成功しません。

でも、それをやらなければ成功しないのです。

なぜイチローは本塁で走者を刺せるのでしょうか。

その時、「イチローの肩がいいから」と言えば、それで話は終わってしまいます。

そうではなく、イチローは猛烈な記憶力を持っているのです。

さっきこのバッターがどういうスイングをして、どこ狙いで、どこへファウルを打って、ピッチャーはどういう配球をしていたか。

次のバッターの打球が、もし自分の守っているところへ来るとしたら、ライナーで来るのか、フライで来るのか、どちら寄りに来るのか。

本塁へ送球するためには、落地点にピッチャリのところまで待っていたのでは、捕ってからすぐには投げられません。

捕球位置より2、3歩バックしたところで待っていないければ、十分な助走がつけられません。

結局、1球1球、ピッチャーは次に何を投げて、バッターがどこを狙ってくるかを考えることによって、本塁で刺すことができるのです。

それは、打球が飛んで来から考えているわけではありません。

ほとんどの分析は、「肩がいい」といつとところで終わっています。

しかし、肩がよければ誰でもできるわけではありません。

盗塁も、足の速さではなく、やはり頭とチームワークです。

今、バッターボックスに立っているバッターと走る側の呼吸が合わなければ、盗塁はできません。

盗塁は、1人でできるものではないのです。

ところが、盗塁王と言われる人は足が速いことだけを言われます。

でも、そんなことはないのです。

100メートル走でもそうですが、それよりも野球の盗塁のほつが細かい理由がた
くさん必要になります。

仕事も、そういう細かいチームワークの積み重ねなのです。

後からフォロワーとして成功をマネしようとする人は、成功するための大きな理由
を1つ教えてくれと必ず言います。

「まず、ここからやったらどうですか」と言えば、「それで成功しますか」「これ1つ
では成功しません」。

そうしたら、「これ1個で成功する情報を教えて下さい」と言つのです。

「そんなものはない」と言つと、「なんだ！」と、怒つて帰つてしまいます。

彼には、根本的な情報を組み合わせるという意識がないのです。

画期的なことを1個やれば、それだけでうまくいくと思ひ込んでいます。

しかし、個人の成功においても、あらゆる成功においても、そんな簡単なことはありえません。

スピード
情報術

その

小さい情報を、
素早く、たくさん集めよう。